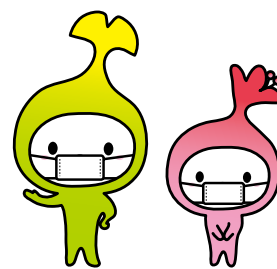


みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光



新型コロナウイルス感染症の
拡大防止にご協力をお願いします

2022年

1月号

No.777

毎月1日発行

〔編集・発行〕和光市企画部秘書広報課 <http://www.city.wako.lg.jp>
〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5 ☎048-464-1111(代表)

広報

わこう



令和4年 新春座談会

座談会は次ページから▶

みんなをつなぐ ワクワクふるさと和光

〔今月の主な内容〕 P4 交通におけるDXの取組 P5 和光市プレミアム付商品券事業の実施 P5 和光鍋の日 by ニッポン全国鍋グランプリ ほか

令和4年 新春座談会 みんなをつなぐ ワクワクふるさと和光



今年度から市の将来都市像となっている「みんなをつなぐワクワクふるさと和光」をテーマに、自治体ランキングの分析や企業の立場、市民の立場から見たまちの魅力と「住みたい街」「住み続けたい街」づくりなどについてお話を伺いました。

和光市のまちづくりについて

柴崎 光子 市長(以下、市長)

これまで駅の南側に多くの施設ができていましたが、今北側に力を入れています。北口は駅前の再開発をして盛り上げていこうとしています。また、和光北インターの辺りも街づくりをして自動運転※で結び、新たな産業拠点にしようというのが、今取り組んでいる街づくりです。区画整理などの開発も行っていくので、人口も若い方を中心に増えていくと思っています。ソフト面では、地元でもっと楽しめる仕掛けを考えていきたいと思っています。市民の方が「やりたい」と言っていることに場所を提供し、協働を進めていきたいと思っています。



大沼 来実(以下、大沼)

和光市は南北の違いがあると言われるそうですね。今後、北側がどう発展していくのかとても期待しています。



和光市の特徴について

池本 洋一(以下、池本)

実は埼玉県民は東京に投票する人が多かったのですが、最新の弊社調べ『SUUMO住みたい街ランキング2021 関東版』では、埼玉県民が埼玉県の駅に投票する割合が過去最高で、55.4%となっているのが特徴です。これにはおそらく2つの要因があって、1つはコロナ禍で東京に出なくなり、自分の街にいた時間が長くなって、地域の見直しが起こったこと。それから、これは経年で起きていることですが、若い人たちを中心に、憧れよりも実質・実利、全体を見ながら街を選ぶという趣向。身の回りの豊かさや、物質的・精神的な豊かさに関心が強い世代が投票の中心になってきていることも挙げられると思います。駅ベースだと和光市駅が首都圏全体で、33位と



なっています。埼玉県内で、和光市より上位の駅は大宮(4位)、浦和(8位)、さいたま新都心(15位)です。東上線沿線では和光市がトップ、しかも過去4年の中で2021年のランキングは最高位タイとなっています。埼玉県の中でも非常に注目度があるのかなと。ランキング投票者のコメントを見ると、和光市の中で見直されたのは、一つは和光樹林公園でした。比較的緑の量も多く、ワンストップで遊べるし、ボール遊びやバーベキューもできますよね。それから、駅ビルができて「顔」が整ったので、シビックプライドみたいなものも生まれました。また、市役所の近くに温浴も含めた複合施設ができるとの告知もあり、今後街が発展していく期待感もあるというのが上位の理由だと思います。一方、『SUUMO住みたい街ランキング2021』の自治体ランキングだと、和光市は首都圏全域では70位、埼玉県内では9位です。上位にはさいたま市が区ごとにランクインしていて、それを除くと上位になっています。住民の評価点が1番高かったのが、今後の街の発展期待で、2番目は交通利便性です。「今後の不動産価値が高そう」といった声もあります。利便性や街の発展期待以外の部分でどう打ち出していくか、という点が、今後議論になってくる街の課題だと思います。

市長 わたしもハード面が整ったらあとはソフト面だという思いです。和光のまちのキャラクター、「こういう街なんだよ」というのを特徴づけたいと思っています。市民の方たちの「こういうことをやりたい」という気運を伸ばし、みんなで盛り上げていきたいと思っています。

池本 首都圏の『SUUMO住みたい街ランキング2021』で上位になっている街の共通項は、地域の中のコミュニティがはっきりとして、市民の活動量が多い点です。自分たちがイベントを作ったりすると、参加感やオリジナル感があります。そして、シビックプライドが高まっていくと思います。その辺りが和光に生まれてくると、一段上の市民満足度が得られるのではないのでしょうか。

渡辺 隆史(以下、渡辺)

東上線はかなり歴史が古く、昭和期からときわ台や鶴ヶ島に住宅を整備してきました。高度成長期は都心に人を運ぶ、駅周辺に良好な住宅環境を作る、というのがメインでした。平成に入り、ふじみ野やつきのわを開発しました。バブル期以降、少し離れたエリアでも住宅の需要はある一方で、交通利便性も同時に求められていたので、駅近で通勤・通学も便利、住宅プラス新駅、といった形で提供してきました。令和に入って和光市駅に駅ビルや、ホテルを出しました。エキアプレ



ミエは、『毎日をちょっと上質にしてくれる一番身近な場所』というコンセプトで、暮らしをより快適にしたいというニーズに応えるものになっています。また、ホテルも宿泊をメインにしたものになっています。このような大規模で長期間を要する開発の中では、大きく2つのポイントがあると思います。1つは、時代によって変化するニーズをしっかりと捉えること。2点目は、単に施設を作るだけではなく、長期的に街の価値の向上につながるようなものをしていくこと。これは、大規模になるほど地域や自治体の皆さんと一緒にやっていかなければと思います。ソフト面でも、今の若い人のニーズはいろいろ変わってきていると思いますので、それに合ったものを行っていくと街の価値も上がっていくと思います。

大沼 和光市の好きなところについて市民の方と話す、アクセス面や、利便性の高さがよく言われます。和光市は程よい大きさで、いろいろな活動をしていても、「あ、ここでもあの人に会う」と、人と人の繋がりが生まれやすい街だと思っています。保育園も増えましたし、子育てもしやすい環境になっています。先ほど、地価が上がっていくというお話もありましたが、マイホームを考えたときに、東上線を下って物件を探す人もいます。お勤めの関係で市民の入れ替わりも激しい街ですが、人と人が付き合やすい空気感があるので、すごく良いと思っています。駅北口再開発の今後楽しみです。ハード面で変わるところがありつつも、ソフト面のサポートも充実していくと良いと思います。

市長 地域に最初に入っていくのは特に女性が多いと思うんです。子供を産んだ瞬間に地域と関わる機会ができますよね。そうなったときに、気付いたら友達が増えていた、というのが理想ですが、今1番難しいのではないかな、と感じています。

大沼 新型コロナの影響で、支援センターや児童館も休館になって、プレパママ教室など保健センターのイベントも全て中止となり、行政が用意した出会いの場がなくなってしまいました。たまたまコロナ前にFacebookで立ち上げた『わこうちゃんねる』は、自粛期間中にメンバーがすごく増えました。遠出ができないので、身近なところに何かあるのかとか、ちょっとした地域の人との繋がりを求めてとか、そういう理由があると思っています。コロナ禍で市民活動が一気に停滞した面がありましたが、オンラインでイベントを配信したり、市民主催でオンライン音楽フェスをやったり、そういう試みがあったのは良かったと思います。

住み続けたい街になるためには

池本 住み続けたい街のポイントとして、1点目は、イベントに参加して楽しい、作って楽しい、という両方だと思います。はじめは自分がイベントを作ったりSNSを立ち上げたりというのはハードルが高いですね。でも、自分とプロフィールが似ている人がやっているのを間近に見れば、楽しそうだな、と参加できると思います。市民発動型、あるいは企業と連携した形でも良いのですが、そういう場があり、そこに参加する市民が増える、というメカニズムがあると強いと思います。それから、偶発的な出会いをどう呼び込むか、というポイントがあります。代々木公園の周辺駅は住み続けたい街ランキングで上位です。代々木公園では、週替わりのイベントをやっていたり、定期的にお散歩をしている人がいたり、人々が偶発的、あるいは定期的に通う場があり、そこで新しい出会いが生まれています。そういう場をいかに用意していくか、ということも重要だと感じます。

渡辺 東上線全体を見ても、乗降人員が右肩上がりで、5年ほど前と比較して4%ほど、和光市では10%ほどと、非常に増えています。東上線そのものの沿線に学校や企業が多く、日中の下り電車でもかなり混んでいます。東上線沿線のポテンシャルは高いと思います。特に和光市は副都心線・東横線も繋がって横浜まで行ける点で、非常に交通利便性が高いと思います。一方で、もう少し期待するのは、狭い道路が多い和光市駅北口がきれいになることです。和光市のポテンシャルはまだまだあるだろう、もっともっと良くなっていくだろうと思っています。先ほど「新しいニーズ」という話もしましたが、今までのように住宅を作って売る、ということだけではなく、さらにもう少し皆さんのお手元に届くようなものを目指すと和光市ももっと良くなっていけると思います。また、先ほど自動運転のお話がありましたが、将来的に北口が整ったときに、次世代のモビリティという点で、弊社グループも地域交通の軸となるよう協力できればと思っています。

大沼 シティープロモーションのキャッチフレーズである『ちょうどいいまち、ちょっといいまち』はまさにそうだな、と思います。大きすぎず繋がりがよく、アクセスも良くて。和光市には目立った観光資源はないのですが、どんどん街が整備されていく中で、そこに住む人の満足度は人との繋がりにから生まれると感じています。ハード面の住みやすさのほかに、今後は多世代交流のできる場などが生まれてくるとよりあたたかい街になり、ふるさと感も出てくるのではないかと思います。

今後の街づくりへの期待

池本 今後のポイントは、市のプロモーションだと思います。和光市は都心に近く、それなりの利便性も整っていますが、和光市自体が知られていないので、もっとプロモーションをした方が良いでしょう。また、医療費補助・待機児童対策といった子育てのしやすさをPRするだけでなく、お父さんお母さんが街

を楽しんでいる、活躍していることを打ち出すと良いかと思います。働く市民が仕事だけでなくプライベートで街の中でも活躍している、という目線はすごくメディア受けすると思います。利便性は十分なので、そこを軸にしてプロモーションしていくと良いと思います。

渡辺 和光市は公園も非常に多くて、住みやすいと聞いていたので、多世代交流が足りないということであれば、それが増えていくとふるさとになっていくと思います。PR面ではわれわれも協力できるところもあると思いますので、一緒に連携していければと思います。

大沼 見聞特派員として、お店の方や、個人で教室を開いている方など、いろいろな方を取材しています。和光市は本当に魅力的な人が多く、そういう人と繋がれるだけで嬉しいし、離れがなくなる街という感じがするので、人と人がもっと繋がれるきっかけがあったら良いと思います。自分から積極的に人と関わることのできる方もいますが、なかなか踏み込めない方もいますし、仕事をしているとなおさらです。若い世代が出産を機に和光市を離れていくのではなく、出産して人との繋がりができたしここは離れがたいな、という流れが生まれると良いと思っています。イベントや地域活動も一人ひとりが持っている力を発揮してイキイキと活動していると、楽しさや充



実感が出てきます。そういう人が増えていくと街が元気になり、街への愛着が深まると思います。

市長 確かに今の和光市は、ほんとに小さい芽がいろいろ出てきています。一方で、PR力は足りないとも思います。ハード面はこれまで積み上げてきたものがあるので、それ以外のところでアピールポイントを考えていきたいと思っています。今後ぜひ、皆さまのご協力をよろしくお願いします。

池本 洋一 (いけもと よういち)

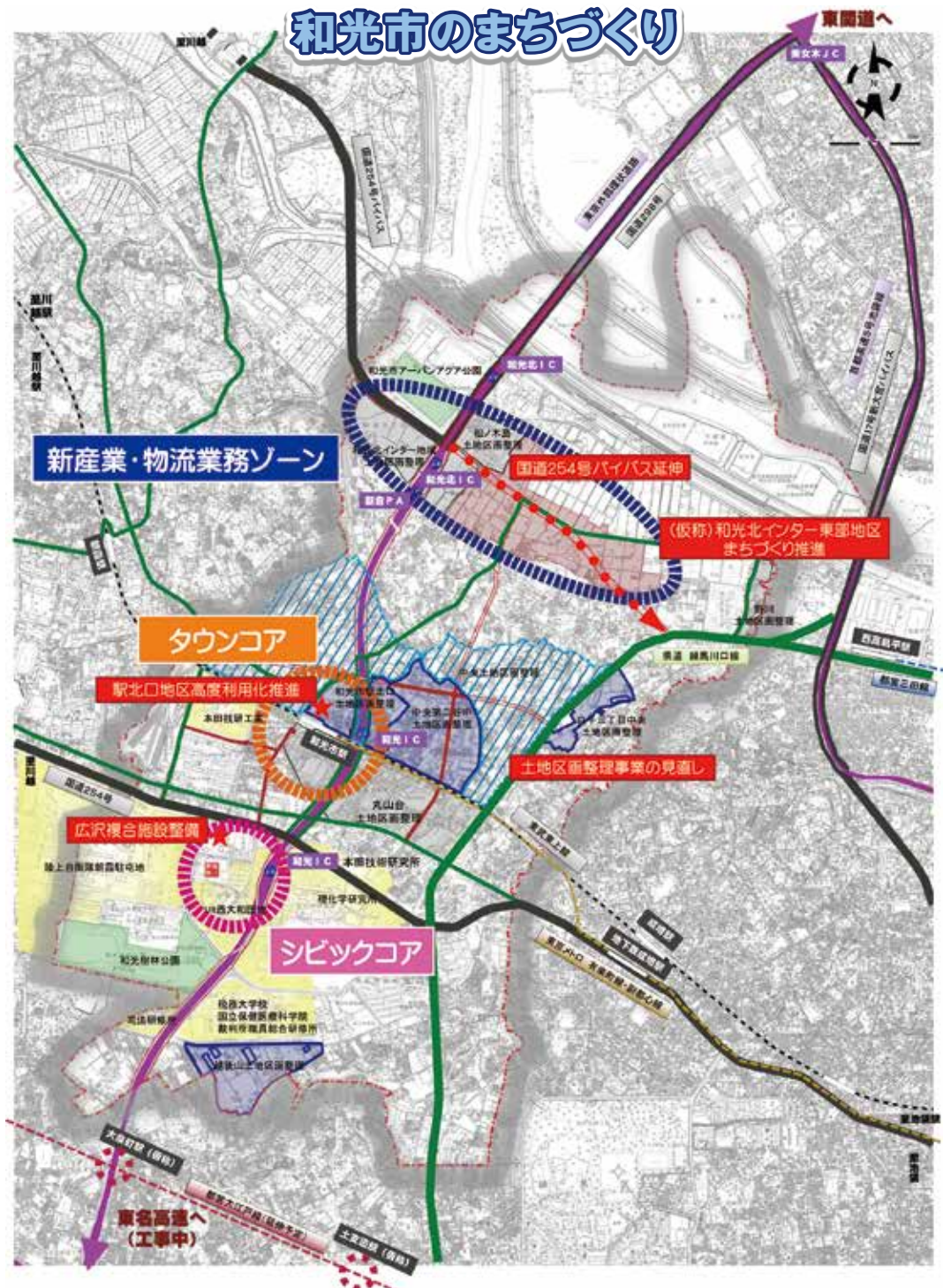
(株)リクルート 不動産・住宅情報サイト『SUUMO』編集長。SUUMOリサーチセンターの所長兼務。街ランキング発表の他に自分らしい人生を応援するため「住まいの価値」を提言・実証する研究を進めている。さいたま市在住。

渡辺 隆史 (わたなべ たかふみ)

東武鉄道株式会社 経営企画本部 部長。東上線沿線で池袋西口の再開発などの業務に携わり、現在は、自治体との窓口として街づくりに関わっている。

大沼 来実 (おおぬま くるみ)

和光市在住。広報わこう まちの見聞特派員 (市民ライター)。『わこうちゃんねる』発起人。和光市100人カイギ、和光市チームSDGsわこサスなど市内の活動に積極的に参加している。



※自動運転を含めた和光市版MaaSについては、4ページをご覧ください